

第1回 テーマ 体験談「初めて教師になって」

- ・期 日 平成23年11月4日(金) 1、2時限
- ・受講者 学生 20人 (4年次19人、大学院生1人)
- ・学部教員 井門正美教授(教職実践演習実施委員会委員長)、佐藤修司教授、佐川 馨准教授
- ・担当教員 神居 隆特任教授、斎藤 孝客員教授、石橋研一客員教授

オリエンテーション

- 1 教職実践演習実施委員会・井門委員長あいさつ
- 2 「教職実践演習」の進め方等について(神居特任教授)
- 3 リフレクションノートの記入、一日実習の希望等について(斎藤客員教授)



新採用として大曲養護学校に採用された伊藤さんは、初任者研修の年間計画に沿った研修内容等について紹介したほか、初任者研修に臨む上での留意点、担当するA子への継続した指導を通じて「やりがい」を感じた瞬間や、学校に勤務してから気づいた自分の課題などについて述べた。

また、採用となる4月までにすべきこととして、大学で学んだことの振り返りを行うこと、教材等のアイデアの「引き出し」を増やすことなどを受講者に提言した。

体験談「はじめて学校に勤務して」

外部講師として、今年3月本学部を卒業後、学校で初めて勤務した相場 愛さん(学校教育課程=国語、附属小学校臨時講師)、伊藤綾華さん(学校教育課程=障害児教育、県立大曲養護学校教諭)の二人を招いて行った。

相場さんは、附属小に勤務することになった経緯として副免実習で「天使たち」との出会いがあったことを紹介した。

また、一日の勤務の流れと仕事の内容、算数の指導で困ったことや学んだこと、学年事務や掲示物作成に取り組んだことなどについて述べた。「仕事はためないこと」、健康管理に気を付けるなど、日頃から気を付けていることにも触れた。



質疑応答

受講した学生から、二人の講師に対して次のような質問が出された。

「4月の採用に向けて冬休みまでやるべきことはどんなことか」

「自分の専門教科以外の授業の進め方はどのように工夫していたか」

「課題解決のために、日頃心がけていることは何か」

リフレクションノートから

・教師として働いている先輩の話を聞いて、身が引き締まる思いです。今からできることもあるので、日々を大切にしていきたい。

・実際に教壇に立っている1年先輩の話を聞いて、4月からの生活が明確になった。不安なことが多いが、謙虚な姿勢で多くのことを学ぶという姿勢で取り組みたい。

・採用までの時間を有意義に使うため何をすればいいのかわからなかったため、二人のお話を聞いて今日から始めようと思った。

・初任であってもやる仕事の内容は同じでなので、卒業までの数ヶ月、できるだけ多くのことを学び、経験したい。

・初任者研修の日数が多いことに驚いた。謙虚さ自ら動くことを忘れずにこれからの生活に生かしていきたい。

学部教員から

【佐藤修司教授】

昨年度の卒業生でこの4月から教壇に立っている二人から体験談とともに、来年度に向けたアドバイスが語られた。二人とも、積極的に教育活動に取り組み、教師としての力量を高めていることから、受講生も、来年度の自分の姿をイメージできたように思える。

【佐川 馨准教授】

今年度卒業したばかりの二人の先輩の体験発表はたいへん効果的だった。受講学生は、新卒者だからこそ戸惑う学校現場の出来事や勤務内容について実感を持って聞くことができたものと思う。